



さやか星  
小学校

SAYAKABOSHI  
Elementary School

# さやか星小学校

## カリキュラム Q & A



この資料は奥田健次先生やさやか星小学校に着任予定の先生方とカリキュラムについて話し合いをしながら、そしてこれまでに開催された学校説明会に参加された保護者のみなさまからいただいた質問を参考にして作成しました。ご質問等ございましたら、遠慮なくお知らせください。

カリキュラム監修 島宗 理（法政大学）

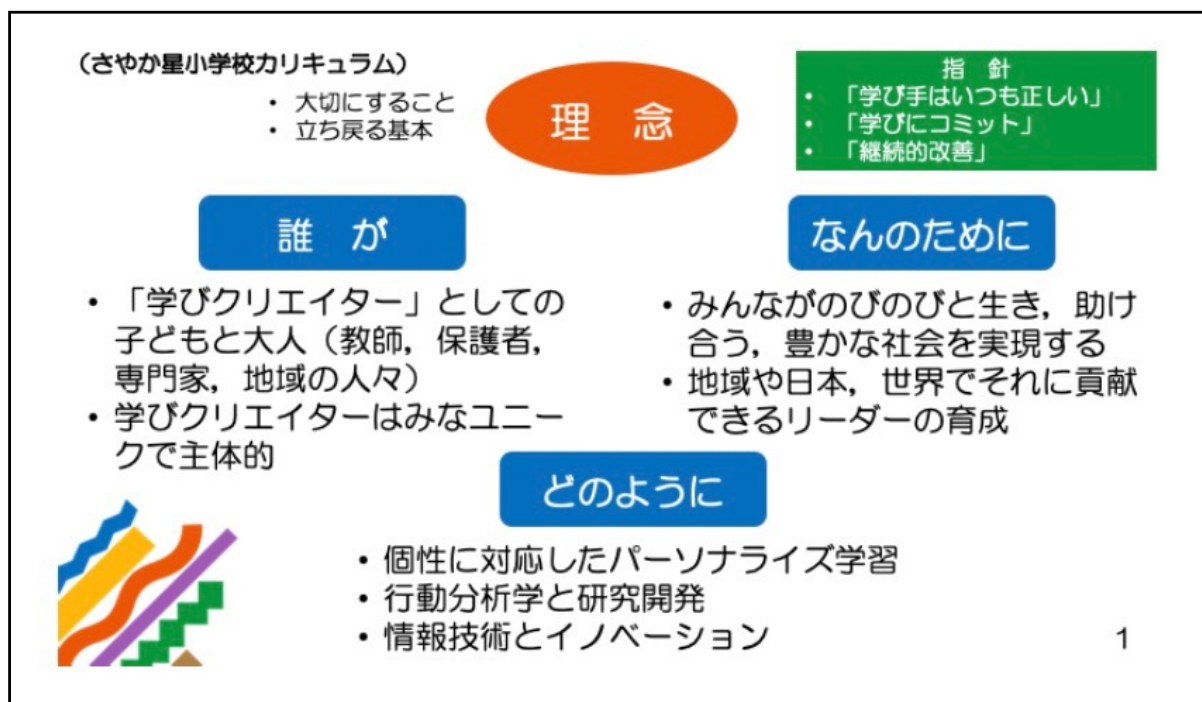


Q：さやか星小学校の教育理念について教えてください。

A：一人ひとりが唯一無二の個性をもったユニークな存在であると認めることがまずは重要であると考えます。そして、それぞれの個性を発揮し、お互いに尊敬し、助け合いながら、のびのびと生きられる社会をつかっていくために学校教育があると考えています。地域や日本、そして世界でこうした社会を実現していくリーダーを育てていきます（スライド1）。そしてそのために、「できること」や「わかること」を爆発的に増やし、「できるようになること」や「わかるようになること」が楽しくなることで、自ら「できるようにになりたいこと」や「わかるようになりたいこと」を見つけていけるように支援します。

Q：「学びクリエイター」とは？

A：様々なことに興味を持ち、主体的に学んで何かを作り出していく個性あふれる人のことです。特別な能力だとは考えていません。人は誰でも「学びクリエイター」であり、その個性を可能な限り発揮できる環境をつくるのが学校の責務だと考えています。学校で学ぶのは子どもだけではなくありません。教師も保護者も、授業や学校に関わる専門家や地域の人々も、みな「学びクリエイター」であり、子どもと一緒に学んでいく人たちだと考えています（スライド1）。



Q：「パーソナライズ学習」とは？

A：さやか星小学校ではすべての児童それぞれに学習目標と学習目標を達成するための支援計画を作成します。子どもの興味・関心，得意なこと・不得意なこと，現在の学習水準などにあわせて授業や活動，課題の内容を決め，学習進度にあわせて調整していきます。同じ学年・学級の同じ科目で同じ授業に参加していても，児童によってその授業で学ぶことが違ってもいいし，むしろ違うことがあたりまえで学校はそれを伸ばすように支援します（スライド1）。

Q：「パーソナライズ学習」はどのように実現するのでしょうか？

A：さやか星小学校で計画している「パーソナライズ学習」は世界でも類を見ない新しい挑戦です。有人火星探査くらい難しいかもしれません。そのためにさやか星小学校では行動分析学をフル活用します。行動分析学は困難な行動変容を引き起こす方法をこれまで何度も開発してきた心理学です。さやか星小学校では，授業や活動にはもちろんのこと，学校運営に関わるすべてに行動分析学の知見を取り入れることで「パーソナライズ学習」を実現します。「あるものは使う，ないものは作る」という指針に基づき，情報技術を中心としたイノベーションも積極的に導入していきます。デジタル教材の活用もこの一例です。研究開発を重視し，イノベーションを創り出していくことにも力を注ぎます（スライド1）。

Q：カリキュラムはどのように編成するのでしょうか？

A：指導要領に準拠し，教科書も使いますが，この授業のこの瞬間に何を何のためにどこまで学ぶのかが，子どもにも大人にも（教師にも保護者にも）明確になるように編成します。今学んでいることが将来何にどのように役立つのかを考えられるように授業や活動を展開していきます。通常，カリキュラムは児童を対象に作成するものですが，さやか星小学校では子ども目線のカリキュラムと大人目線のカリキュラムを同時に作成していきます（スライド2, 3）。指導要領や教科書にあるからそのように授業をするというあたりまえを変え，教師が一人ひとりの子どもの将来を展望し，未来と現在に学びの線を引けるようにします。このように，子どもと大人と一緒に学ぶ仕組みを実現することも，地味ではありますが，これまでの日本の学校にはない挑戦の一つです。

(さやか星小学校カリキュラム)

子ども目線

目 標	内 容	方 法	評 価
どのように成長するか	何を学ぶか	どのように学ぶか	どのように振り返るか
個性豊か ・好きなことや得意なこと、ユニークさ ・友情や愛情、お互いをリスペクト 世界に通用するスキル ・積極性と責任感、コミュニケーション、リーダーシップ、セルフマネジメント、アサーション、傾聴、協調、他者や異文化への関心や尊重、ストレス耐性、粘り強さ、逆境におけるチャレンジ、冒険心。	基礎学力や知識 ・読み書き計算 ・物知り博士 ライフスキル ・食べる、楽しむ、笑う/笑わせる、作る、休む、苦手に挑戦する 学ぶスキル ・調べる、考える、確かめる ソーシャルスキル ・聞く、話す、話し合う、助け合う チームスキル ・率いる、もり立てる	授業 ・聞く、やってみる、考える、質問する 小集団学習 ・伝える、話し合う、相手の話を聞く、相手の意見を尊重する 個別学習 ・練習する、見つける、楽しむ 活動 ・体験する、発見する、調べる、報告・発表する ワークショップ ・子ども大喜利など	省察と計画 ・できるようになったこと、できそうなこと、やってみたいこと、挑戦して克服したこと、次に挑戦すること。 ・できるようになったこと、挑戦したことについて自分や他者を認め、褒めること。次に挑戦することを決めること。

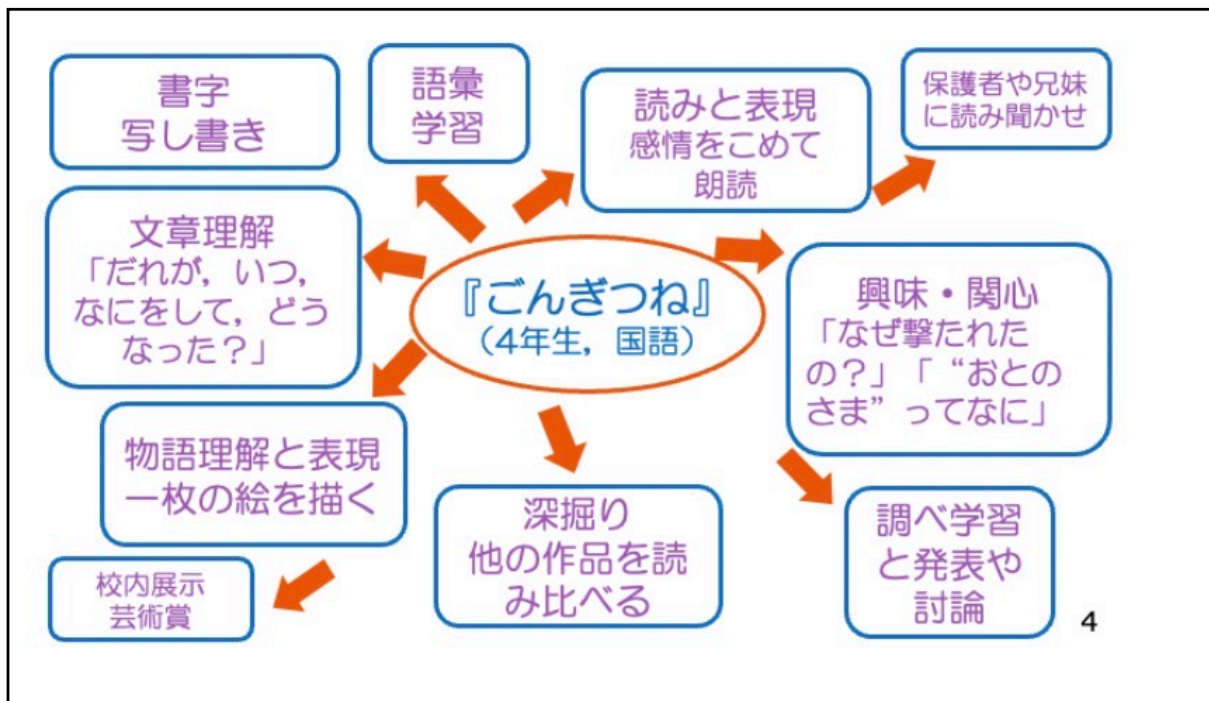
(さやか星小学校カリキュラム)

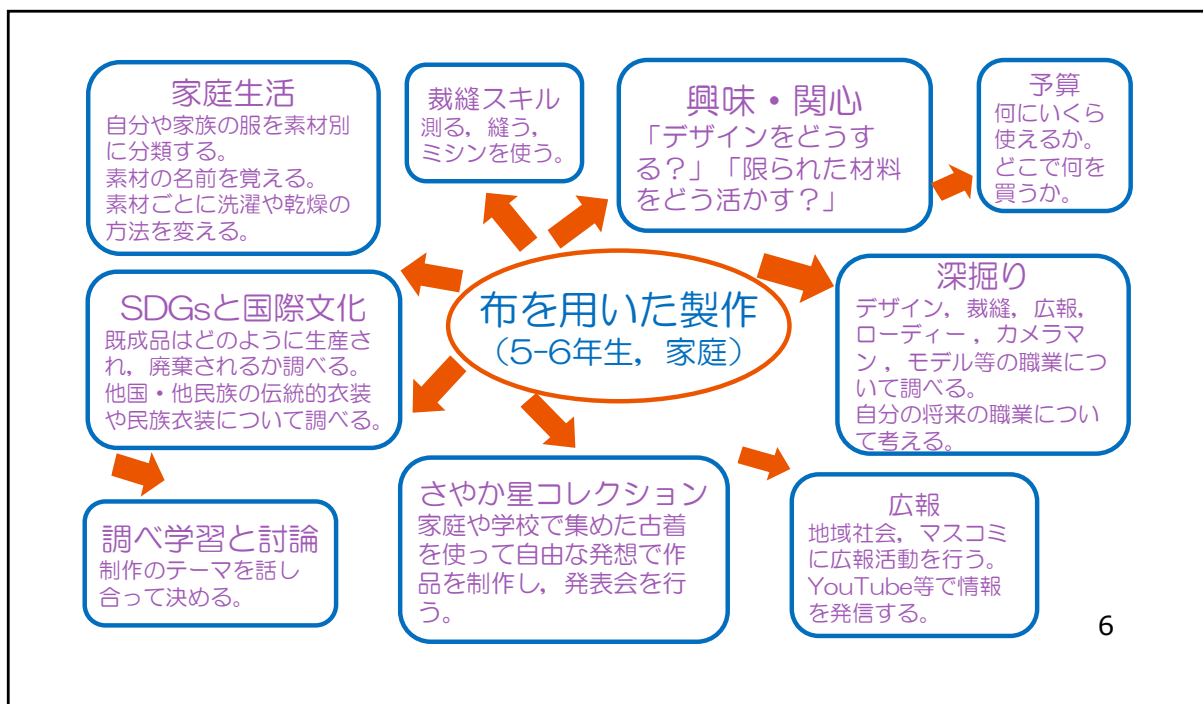
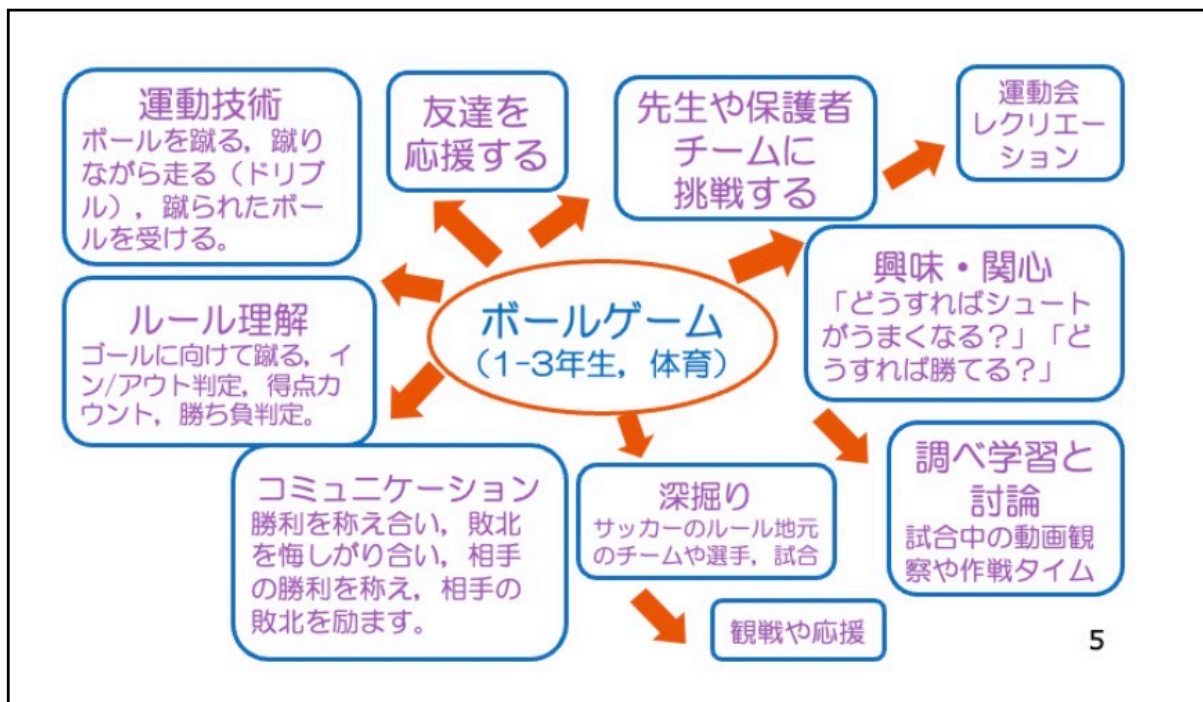
大人目線

目 標	内 容	方 法	評 価
どのように育てるか	何を教えるか	どのように教えるか	どのように振り返るか
個性を伸ばす ・好きなことや得意なことを把握 お互いをリスペクト ・友達関係、教師との関係、親子関係を把握 保護者とのコミュニケーション 将来を展望する ・世界で活躍する人に育てる	指導要領と教科書+α ・何のために教えるか、現在や将来、何に役立つのかを考える ・教科間の連携 学習目標（年度/学期/随時）の個別最適化 ・何をいつどこまでどうやって教えるのか	指導方法の最適化 ・授業、小集団学習、個人学習、体験学習などなど 効果が検証されているプログラム ・スクールワイドPBS ・いじめ防止3R ・プリシジョンティーチングなど。 デジタル教材の活用 ・既存教材、オリジナル教材。	省察と計画 ・学習目標に基づいた測定と評価：教えようとしたことが教えられたか ・学内の検討会 ・保護者と学習記録を共有 ・「学び手はいつも正しい」に基づいた指導方法や教材の継続的改善

Q：どのような授業になるのでしょうか？

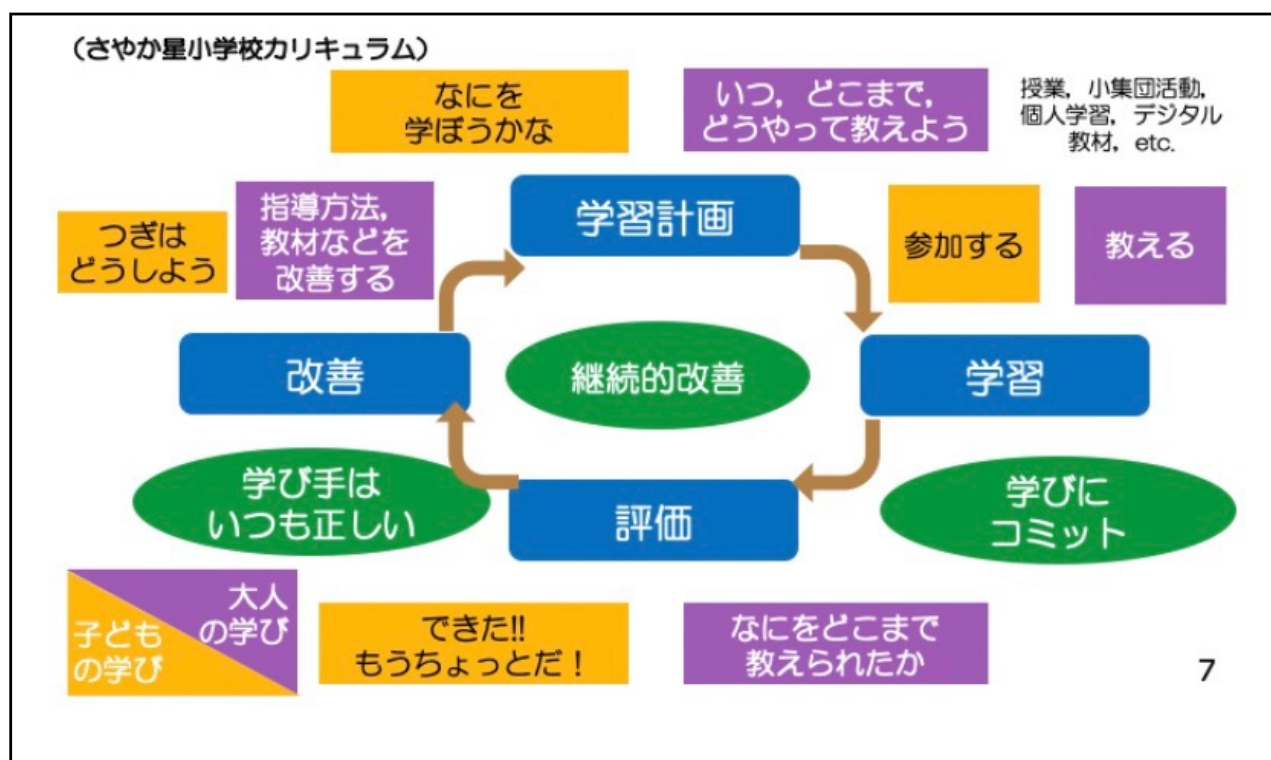
A：「パーソナライズ学習」を展開するために入学直後や年度や学期が始まると、まずは子どもの学習進度を確認し、学年・学期の学習目標を設定します。そしてそれに基づいて授業や活動の目標と目標達成指標を決めていきます。どのような授業になるかは、その授業に参加する児童それぞれによって決まることになります。同じ学年、同じ教科書や活動で授業に参加していても、児童によって学習目標が違い、このため授業中に取り組むこども違うかもしれません（スライド4，5，6）。授業や活動の内容や支援方法・教材は、児童の学習成果に基づいて改善し、開発していきます。ですから、同じ学習目標の子どもがいたとしても、1年目と2年目ではまったく違う授業が展開される可能性もあります。これまでやってきた授業をあたりまえとして続けるのではなく、学習目標の達成度によって改善していくからです。学校以外ではあたりまえになっている継続的改善の考え方を学校に導入することになります。





Q：「継続的改善」とは？

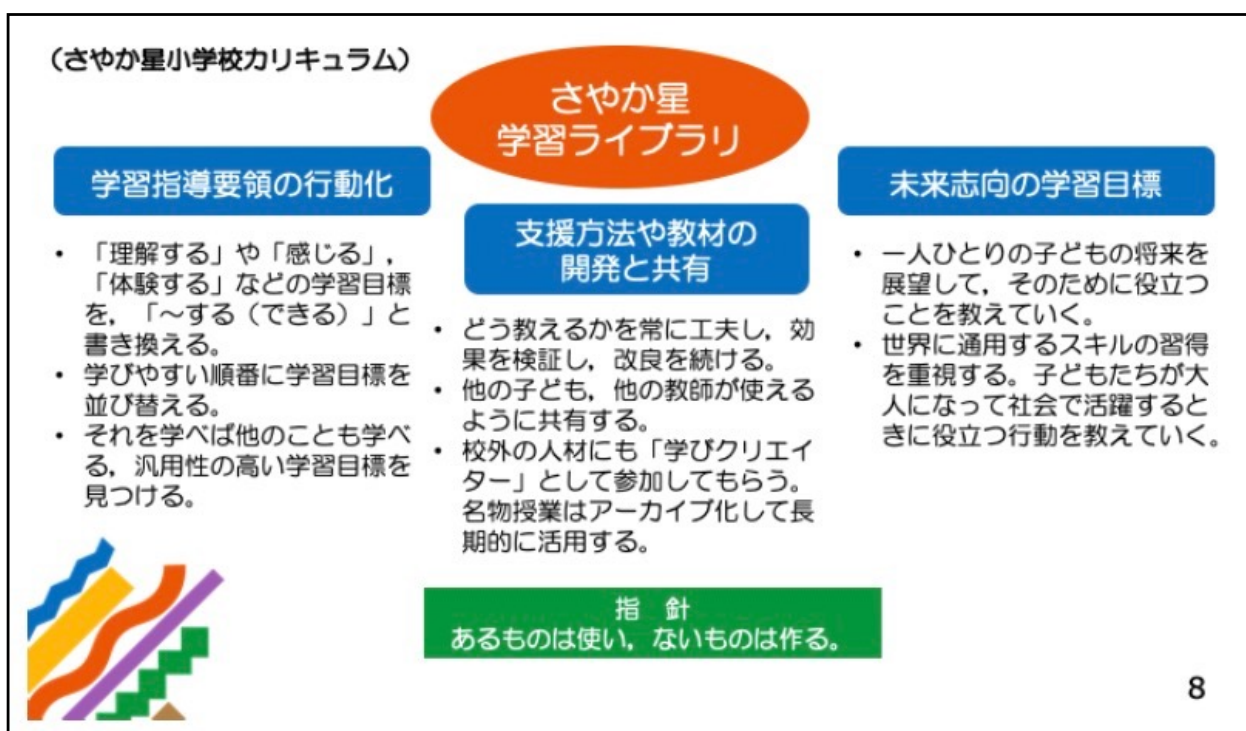
A：やろうとしていることがうまくいっているかどうか、よりうまくするにはどうすればいいかを成果に基づいて考えて、改善を続ける方法です。子どもにとってみると、興味・関心を持ち「なにを学ぶか」を決めて、授業や活動に参加し、学びたかったことが学べたかどうかを振り返り、次に学ぶことを選んで決めていくことを繰り返していくこととなります。同時に、教師や保護者は、子どもに「なにを教えるか」を決め、授業や活動を提供し、教えたかったことが教えられたかどうかを振り返り、授業や活動や教材などを改善することを繰り返していくこととなります（スライド 7）。子どもにとっては「授業に出席したこと」、大人にとっては「授業をしたこと（教師）」や「説明したこと（保護者）」がゴールではなく、その成果（できること、わかることが増えたかどうか）を重視します。できないことやわからないことを子どもや大人のせいにはせず、次のステップの改善につなげていきます。





## Q：「さやか星学習ライブラリ」とは？

A：継続的改善を続けていくとどのような子どものどのような学習目標の達成にどのような支援方法（授業や活動や教材など）が有効なのかといった知見が蓄積されていきます。さやか星小学校ではこれを「さやか星学習ライブラリ」と呼び、共有します。教師や保護者に孤軍奮闘させず、有効なことがわかった既存の教材は再利用することを前提にします。校外の専門家や地域の方々積極的に協力を呼びかけ、校外からの「学びクリエイター」として参加していただきます。名物授業はアーカイブ化して長期的に活用します（スライド8）。



Q：時間割など、一日の活動の流れを教えてください。

A：標準的な時間割を採用します。授業時間や休み時間の時間帯を揃えることで、規則的な活動パターンを学べるようにするためです。ただし、授業時間に子どもが取り組む内容や活動は子どもごとに異なるかもしれません。同じクラスの算数の授業を見学すると、グループで話し合いをしている子どもたちもいれば、一人でデジタル教材に取り組んでいる子どももいるというようにです。グループで話し合いをしても、中には数を数えることがその時点の学習目標になっている子どももいれば、計算が目標になっている子どももいるかもしれません。それぞれの子どもがいつ何をどのように学ぶかは、年度ごと、学期ごとに学習計画を立てて決めます。そして学習進度を測定、評価し、それに合わせて学習計画も更新していきます。

Q：採用予定の教科書は？

A：文部科学省発行の小学校用教科書目録に掲載されている出版社の教科書を採用します。現時点での採用予定は以下の通りです（2023年8月末時点）。

国語：光村 書写：光村 社会：東書	地図：帝国 算数：日文 理科：教出	生活：信教 音楽：教芸 図工：日文	家庭：開隆堂 保健：学研 英語：三省堂 道徳：学図
-------------------------	-------------------------	-------------------------	------------------------------------

Q：小学校卒業までに何をどこまで学ぶことができますか？

A：発達も学習も、何がいつどこまで進むかは子どもによって大きく異なり、それが自然であると考えています。漢字がきれいに筆記できないのに、数に関しては中学の数学レベルまで理解できる子どもや、人前で話をするのは苦手でも、植物の名前や生態には誰よりも詳しくなる子どもも現れるでしょう。ゴールはそれぞれ違うけれど、それぞれが自分のゴールを目指し、教師や学校、そして保護者がそれを支援、応援する仕組みを実現します。子どもごとの学習計画とその進度を共有し、活用する情報システムを導入予定です。

Q：導入予定の特徴的な教育プログラムを教えてください。

A：「スクールワイド PBS」や「いじめ防止 3R」，「プリシジョンチーティング」など，すでに効果が実証されているプログラムを積極的に導入します。ユーモアを育む「こども大喜利」，好奇心を増大させる「こども探検隊」，逆境を乗り越えるスキルを身につける「ピンチはチャンス」，働く意欲を育てる「君たちはどう食べるか」，リーダーシップやセルフマネジメントをテーマにした独自プログラムを続々開発していきます。一方，授業や活動，生活指導など，日々の学習支援のあちこちで，学習目標を具体化し，見本や手本を示して，できたら褒めるといった行動分析学の研究や実践で築かれてきた指導技術をふんだんに使います。目立たないかもしれませんが，本校の教育成果を支える核となるプログラムです。

Q：教師の専門性はどのように確保するのですか？

A：本校の理念を理解して賛同し，学校と一緒に作っていこうという意気込みのある教師を採用しています。行動分析学を習得した教師を優先的に採用します。教師も子どもも共に学びクリエイターです。学校は教師への継続的な研修プログラムを提供し，教えながら学び続けることを支援します。校務のあり方を見直し，情報システムを活用することで，教師が自主的に研鑽し，それを子どもの学習へ還元するための時間や機会を十分に確保することも学校の責任だと考えています。

Q：保護者の役割はどのようにお考えですか？

A：子どもと同じように成長する学びクリエイターであると考えます。保護者にとって，我が子が思うようにならないことは当然のように訪れます。その際，どのような態度や言動で子育てを行うか。そこに保護者の学ぶ姿勢が求められます。また，学習目標の個別最適化に保護者のみなさまのご協力は欠かせません。年間学習計画や学期の学習計画を立案するさいにご意見をお聞きすることになります。学期の間も学習の進捗を共有します。学習目標によってはご家庭で行う「宿題」の支援をお願いすることもあります。学習計画に即して行われる活動や行事でもご協力をお願いすることになります。保護者のみなさんが子どもさんと一緒に学んでいけるように，保護者向けの研修プログラムも提供します。いじめや不登校の防止には保護者の家庭での子育てのありようが大きな影響を及ぼします。さやか星小学校の教育の質は，保護者の学びによって高められると考えています。

保護者の参加が期待される活動や行事の例

- いじめや不登校の防止研修（定期開催）
- クラブ活動を支援する「ママだってコーチ、パパだってコーチ」
- 地域の特産物を親子で探求する「親子 de アグリカルチャー活動」